



グループ創作の練習



リズムなぎなた

部活動も存在する。小学生の時から、競技に励んでいる生徒も複数名いる。また、地域には資格を有する指導者が多数いる等、生徒がなぎなたに触れる機会が多い。そのような環境を生かし、本校では、武道を通して礼法を重んじた人間性の高まりを目指し、9年前から香川県武道等指導充実・資質向上支援事業を通して、なぎなたの有段者で、生徒の指導経験がある地域の外部指導者と協力してT・T授業を実施している。外部指導者からのきめ細かい技術指導、礼法指導を通して武道を身近なものと感じ、ペア活動やグループ活動の時間を通して、生徒たちの他を思いやる心を育て、協調性・協力性を高めたいと考えている。また、1年生時の授業で基礎技能の習得と、2年生時の授業で基礎技能を生かした「リズムなぎなた」創作を通して、なぎなたを楽しむ、日本古来の武道のすばらしさに気づき、武道独特の「凛」とした雰囲気づくりを大切にしていることや、生徒が主体的に活動し、普段の学校生活において物や場、人を

# シリーズ 中学校武道

## 授業の充実に向けて 121

### つまずきをどう克服したか 14 (なぎなた・外部指導者とともに授業を行う)

香川県仲多度郡琴平町立琴平中学校 教諭 関 育代

琴平町は、香川県のほぼ中央にある象頭山の麓に位置し、国指定天然記念物の「大センダン」や象頭山の豊かな原生林などの自然環境に恵まれた8・47kmの小さな町である。

また、「讃岐のこんぴらさん」で有名な金刀比羅宮の門前町として栄えてきた歴史と文化の町であり、県内はもとより四国を代表する観光地として国内外より年間300万人を超える多くの観光客を集めている。

そんな琴平町にある琴平中学校では、武道を通して人間性の高まりを目指し、9年前から香川県武道等指導充実・資質向上支援事業を通じ地域の外部指導者と協力して、T・Tのなぎなた授業を実施している。

本稿では、琴平中学校での滞ることなく実施できた外部指導者を活用したなぎなた授業を紹介したい。

#### 1 学校の特徴

本校は昭和22年に開校し、現在9学級、生徒数179名である。学校としてボランティア活動を推奨しており、町の「チャリティーバザーボランティア」、社会福祉協議会と協力して行う「おせち配りボランティア」等、多くのボランティア活動に生徒が主体的に参加している。また、1995年から始まった

#### 2 学習場所と用具

本校の武道場は、女子全員がなぎなたをするには、スペースが狭いので、体育館を使用している。体育館では、外部指導者の師範が全体に見えやすいようにステージを有効に活用して授業を行った。演技競技会の会場は、2つ用意し、クラスごとに対戦したり、能力別に分けたりした。用具については、なぎなたを35本購入し、授業で使用している。定期的な竹のささくれや柄の部分がついていないか等の点検を行っている。防具のすね当てを香川県なぎなた連盟でお借りし、左足のみ装着して、打突の練習を行った。その他の防具は、外部指導者が持参し実物を見せたり、映像で防具を装着しての試合の様子を見せたりした。また、リズムなぎなたで演技を披露する際に身につけ

#### 3 外部指導者の活用

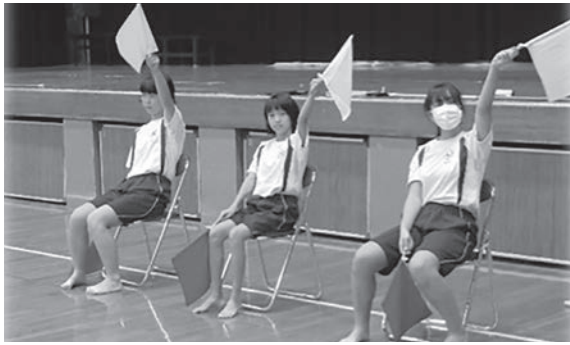
武道はその特性から、「伝統と文化」に触れる重要な学びの場であり、他の運動領域では学ぶことができない価値を持っている。相手を尊重する態度の現れとしての礼法、自分で自分を律する心なども、武道特有のものであり、現代社会に育っている生徒にとって不可欠なものを学ぶ場にもなる。しかし、利点が多い反面、武道を専門とする保健体育科教員が少ないことが現状である。生徒全員に武道の特性を正しく学ばせ、学習の中でその良さを伝えていくためには、まず指導する側が学習内容を正しく理解し、授業を進めていく必要がある。そこで本校は、単なる技術指導にとどまらず、武道を通じて礼法や伝統文化を学ばせるために、専門技術を持つ外部

人権劇は今年で24回を迎え、地域の人々に愛される行事となっている。

学校教育では、「象頭のごとく」を校訓とし、教育目標「自他を尊重し 学び合い 高め合う」のもと、自らの夢を育み、その夢の実現のため、集団の中で切磋琢磨することを通し、自分の良さを伸ばすとともに、仲間を思い、仲間と共に学び合い、高め合う意欲と豊かな心の育成を目指している。

琴平町は、伝統的になぎなたの盛んな地域で、なぎなたのスポーツ少年団があり、中・高等学校に

るたすきを香川県なぎなた連盟からお借りし、演技をより華やかにできるようにしている。



演技競技会に向けて旗の上げ方を練習



演技競技会



すね当てを装着する



なぎなた授業の前に雑巾がけをする



全校集会での発表



グループ創作の練習



しかげ応じをする上でのポイントを説明



打ち返しの練習をする

1年生は、まず、礼儀作法や基礎技能を習得した後、打ち返しやすね当てを装着しての打突練習に取り組んだ。そして、2人1組で基本の技を組み合わせた「しかげ応じ」1本目、2本目の練習を行い、演技競技会を最終目標として、授業を進めていった。

また、基本動作の指導を行う際には、段階的に行い、少しずつ難易度を高めながら定着を図った。5、6時間目には、香川県なぎなた連盟からお借りしたすね当てを全員左足に装着し、実際に打ち込

## 授業の実践

6

今年度は、1年女子12時間、2年女子10時間で計画を立て、授業を実施した。

り方や切先の中心を意識させるときにコーンを使用したり、礼法が正しくできているかのチェックが均等にできるように、生徒の並ぶ列を1時間ごとにずらしたりする工夫を重ねた。

演技の前半は全体で共通した動きを行い、中盤はグループ内のなぎなた部員を中心に創作活動を行った。全体演技の大きな振り付けは、外部指導者の方で考えていただき、中盤のグループ創作の部分は既習の技をそれぞれ組み合わせ、構成を考え、工夫し練習を重ねた。また、昨年度のリズムなぎなたの発表や全国のトップレベルの演技の様子を参考資料として映

む練習をした。演技競技会に向けての練習では、実際の試合で使用される旗を用意していただき、審判の意義や心得、見るポイント、旗の上げ方などを詳しく指導していただいた。

演技競技会の審判・運営を生徒自身で行うことで、正しい打突部位を打つこと、お互いの呼吸を合わせ、大きな発声を行うことなどを改めて意識することができた。

2年生は、既習の技を組み合わせ、音楽に合わせて行う「リズムなぎなた」を教材とし、全校集会での発表を最終目標として、意欲的に取り組めるように授業を進めていった。

## 教員の役割と外部指導者の役割

4

授業では、担当教員と外部指導者の役割分担を明確にして、行った。担当教員が初めに全体指導や本時の流れを説明したあと、外部指導者が詳しい技術に関する内容を説明し、授業を進めていった。技の確認を行う際には、外部指導者やなぎなた部員が中心となって模範を示し、担当教員が解説を加えて指導するなど、それぞれ連携して授業に取り組んだ。また、担当教員は、外部指導者の助言を十分理解していない生徒への個別支

指導者の協力を得ながら、1・2年生の女子において、なぎなたの授業を行っている。昨年度からは、高等学校でなぎなたの指導経験がある本校卒業生の方に指導をお願いしている。なぎなたの有段者による専門的な指導は、保健体育科教員に足りない技術面の指導力向上につながり、年々充実した授業になってきている。

## 指導計画

5

指導計画書を作成するにあたり、外部指導者と事前打ち合わせを可能な限り行い、日程調整や配慮が必要な生徒の情報交換を行った。そして、時間割を調整し、週2日1、2年の体育の授業が連続する日を作った。

また、昨年度は、外部指導者とともに、日本武道館と全日本なぎなた連盟が主催する全国なぎなた指導者研修会に参加した。今年度はその経験を生かし、問合いの取

援、用具の配付、安全面への配慮を主に担った。

また、素足で授業を行うため、足のけが防止を考え、授業のある日は7時30分から体育館のモップがけを行い、ほこりやごみを取り除くとともに、毎時間授業前に生徒全員で床の雑巾がけを行った。なぎなたの正しい扱い方を常に指導し、用具の破損の点検を毎時間行った。

	指導内容	
	1年女子	2年女子
1時間目	オリエンテーション なぎなたの歴史 礼法について	オリエンテーション 1年の復習 構え 体さばき
2時間目	礼法 構え 上下振り 正面打ち 正面受け方 体さばき 八相の構え	1年の復習 面打ち 上下振り 打突部位の確認
3時間目	振り上げすね すね打ち 下段の構え すねの受け方	リズムなぎなたの創作
4時間目	八相の構え 刃部、柄部の応じ方 打ち返し	リズムなぎなたの創作
5時間目	すね当てを装着して打突練習 打ち返し	
6時間目	すね当てを装着して打突練習 打ち返し	
7時間目	打ち返し しかけ応じ1、2本目	リズムなぎなた グループ創作
8時間目	しかけ応じ1、2本目	リズムなぎなた グループ創作
9時間目	しかけ応じ1、2本目	リズムなぎなたの創作
10時間目	演技競技会に向けての練習 入退場	リズムなぎなたの創作
11時間目	演技競技会①	リズムなぎなた発表に向けて練習
12時間目	演技競技会②	リズムなぎなた発表に向けて練習

ディアを出し合いながらリズムなぎなたを創り上げていったのは大変だったが、とても楽しかった。

今回のリズムなぎなたを通して、今まで以上になぎなたを好きになることができた。

また、練習をしていく中で生徒自身がお互いのことを考えたり、協力することの大切さを感じ、それが授業後の感想に表れている。また、練習をしていく中で生徒自身がお互いのことを考えたり、協力することの大切さを感じ、それが授業後の感想に表れている。

・打ち返しの柄で受けるときに、いつもとまどってしまうので正確に覚えたいと思う。打つ方は、しっかりできた。動きを大きくしていきたい。  
・演技をしてみて、立ち位置や切先が合っているかなど、細かなところに意識を持っていくのが難しかった。また、審判をしてみ

## 7 まとめ

1年生の生徒全員が課題技を習得でき、2年生の「リズムなぎなた」創作活動も「全校集会での発表」が目標となり、生徒たちの練習意欲を高め、達成感を味わわせることができた。

## 8 生徒の授業の感想

〇1年生  
・初めてなぎなたをして、礼作法などが分かった。動きが多すぎて難しかったけれど、詳しく説明してくれたので正座の立ち方・座り方を正しくすることができた。また、なぎなたの持ち方、動き方、一つ一つの動作には意味があることが分かった。

様々なポイントがある中でその一つ一つをしっかりと見極めるのは、すごく難しいと思った。  
〇2年生  
・一つ一つの動きに集中しなければならなくて、すごく難しかった。よく出てくる八相の構えでは、思ったより高めに持つことが大切だと分かった。左手は腰、右手は耳の横を心がけたい。無構えで入場するとき、姿勢よく、周りとそろおうようにした。私のグループは受け流しが2回できた。苦

手だったけど、練習して本番で成功することができた。協力して楽しく行うことができた。  
・私がリズムなぎなたの中でがんばったことは、グループで創作した部分をよくよくするためにディアを出したことだ。私のグループはあまりタイミングが合わず、バラバラでいつも時間が余ってしまった。そのため、毎回みんなでアイディアを出し合い、試してどんどん改善することができた。このように、友だちとアイ

なぎなた自己評価カード

( ) 柄 ( ) 組 ( ) 奉 ( )

	A: たいへんよくできた B: できた C: あまりできなかった D: できなかった								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
入室・ぞうきん掛け・なぎなたの帯いをして来たか。	B	A	A	A	A	A	A	A	A
大きな声で強声したり、返事をしたりできたか。	D	B	C	B	A	A	A	A	A
課題の技ができるように工夫して繰り返し練習できたか。	C	B	A	B	B	A	A	A	A
相手のことを考え、協力して練習できたか。	C	C	B	B	B	A	B	A	A

1時間目の感想  
2時間目の感想  
3時間目の感想  
4時間目の感想  
5時間目の感想  
6時間目の感想  
7時間目の感想  
8時間目の感想  
9時間目の感想

なぎなた自己評価カード

日本武道館に掲揚されている日本最大級の日の丸の実績  
全日本少年少女武道錬成大会 刺繍旗

■社旗 ■校旗 ■各国国旗 ■のぼり ■応援幕 ■バナー  
 ■タスキ ■腕章 ■半纏 等  
 ■トロフィー ■楯 ■徽章 ■記念品各種  
 ※デザイン作成もいたします


 早稲田大学 慶應義塾大学 立教大学


**株式会社 三上旗店**  
 (創業明治五年)

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-12-6 三上ビル  
 TEL: 03-3663-8841 FAX: 03-3664-8108  
 Mail: info@mikami-flag.co.jp URL: www.mikami-flag.co.jp